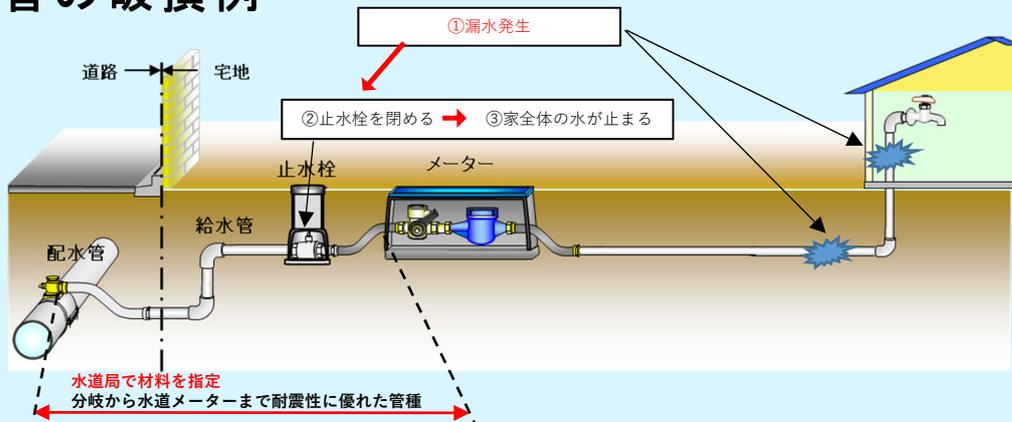


横浜市水道局では、災害時の給水経路を確保するため、メーター直近の**散水栓等まで耐震性に優れた給水管**とすることをお勧めします。

※能登半島地震では、**宅地内（水道メーターより蛇口側）の漏水が原因**で、宅地内水道メーターまで復旧した後も蛇口から水が出ないという状況が多く見られました。水道メーター直近の散水栓まで耐震性に優れた給水管とすることを推奨します。ご家庭でできる水道の確保策として、散水栓を活用することを、建物の新築、建替え等の際にはぜひご検討をお願いします。

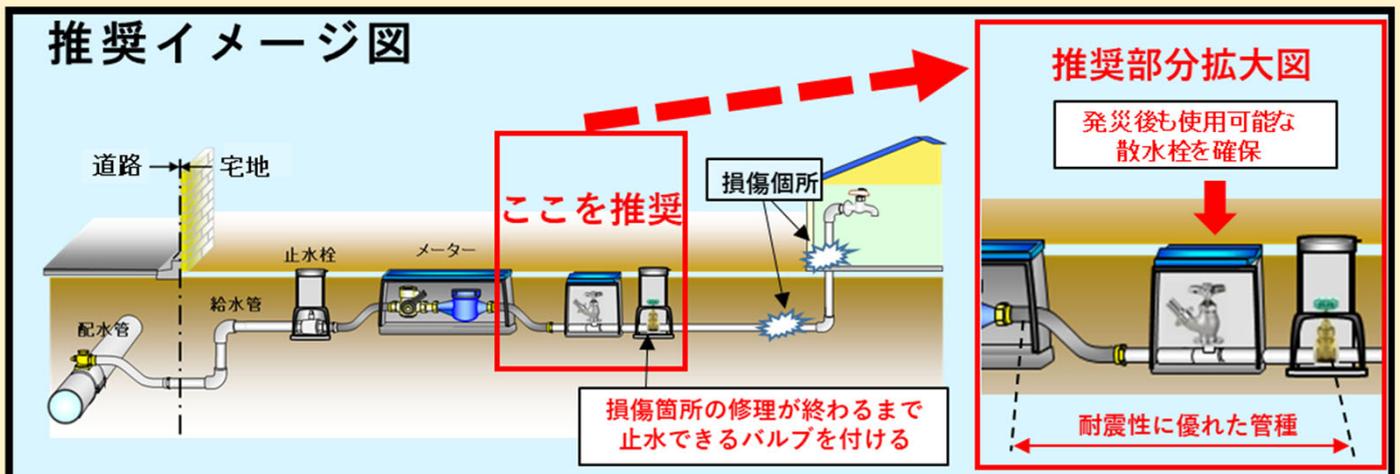
給水管の破損例



地震等の発災で、床下や壁の中の給水管で漏水が発生すると、すぐには修理出来ません。

また、水道メーターより道路側の止水栓を止めると、ご自宅全体で水道が出なくなってしまいます。

推奨イメージ図



水道メーターよりご自宅側で、メーター直近の散水栓までを耐震性の優れた材質としていただくと、宅内の給水管が損傷しても、配水管が復旧した後は、災害時給水所に水を取りに行くことなく、自宅の水道を利用していただけます。